



用安(ようあん)※方言名：ユアン

奄美市の指定文化財「蘭家の庭園」がある用安集落。この庭園の主屋と集落内にある旧安田家住宅主屋は、国の登録有形文化財に指定されています。用安海岸は、奄美大島を代表する海岸の1つであり、観光客にも人気のスポットです。



与湾大親

琉球統治時代は奄美に数名の大親が配されていたとされる。笠利には宇宿大親と喜世(喜瀬)大親が置かれ、グスク遺跡がある。用安には湊グスク、大和城もあり与湾大親の墓地とされるトフル墓もあった。与湾大親の碑は、観光施設ばしや山村に隣接する県道沿いにある。与湾大親の説は他に宇検村湯湾岳にもある。



イシウシュキ

県道を南下し、赤尾木近くの海岸線にポツンとある岩がイシウシュキである。この岩は与湾大親の海の岩とされ、この岩に投石用の石を集めたとする話や、昔、ここを通る海岸線は畏れられる場所であったので、この岩に石を投げてウシュキ(祓う)して渡っていたという話がある。



明神崎(ミョウガンザキ)

県道を用安集落から土浜集落に越える大きなカーブの先端を明神崎と呼ぶ。県道がなかった時代は海岸線を渡って歩いたという。明神崎は一番の難所でケンムン(妖怪)の出没する場所として畏れられているが、海岸線には美しい海浜があり、古代遺跡(明神崎遺跡)もある場所である。



神ノ子の枕状溶岩

枕状溶岩は県道を用安集落から神ノ子集落に行くカーブに露出している。枕状溶岩は、海中に溶岩が流れた時に溶岩流の表面が海水で急冷され、枕状に固まることから枕状溶岩と呼ばれる。全国各地にあるが、奄美大島にも以前は海底火山があり、隆起したことを物語る。



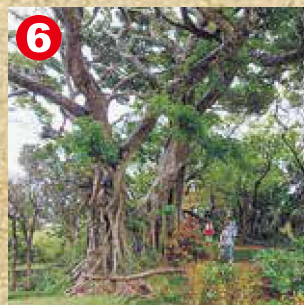
蘭家の庭園

オモテとトゴラからなる分棟型の住宅をなす蘭家住宅は平成19(2007)年に国登録有形文化財になり、東側にある庭園も奄美市指定文化財となっている。オモテは寄棟造鉄板葺で、主室8畳とネショ、トゴラからなり、ヒキモンとよぶ横架材を使う構造で、奄美の伝統的な建築様式を伝えている。



湊グスク(ニャトグスク)

用安集落には湊グスク、ヤマグスク、フーグスクの3つの城が配置され、海からの防御を意識したグスクと言える。標高約25mに立地する湊グスクは平成4(1992)年に調査され、海を望む場所には4本柱の遺構が確認された。出土遺物では双魚紋青磁が出土し、中国等と交易を行っていたことが伺える。



古墓(アガレバカ)

港に行く集落道路の東側には小さなアガレゴが流れており、その河口近くの小高い場所に大きなガジュマルの木とアコウの木がある。アガレバカはその樹根の這一帯にある。サンゴ石による方形の墓地はそのガジュマルの根に飲み込まれているのが見える。集落の人が畏れ、敬う遺産である。



旧安田家住宅

旧安田家住宅は、江戸末期の分棟型住宅でヒキモンと呼ばれる囲桁を柱に通し、軸組を固める構造。オモテは桁行4間半梁間3間半、寄棟造鉄板葺である。室内は玄関の奥に4畳半が2間前後に並び、右手にオモテ10畳がある。

旧安田家は笠利町用から平成15(2003)年に移築。平成19(2007)年に国登録有形文化財となった。